

「開かれた大学」としての情報処理センターの取り組み

情報処理センター 沖花 彰

大藪亜里子

平成12年度より本学は「教育の総合大学」として位置づけられ、さまざまな試みがスタートした。地域社会に開かれた大学としての試みも進んでいる。情報処理センターでは既にいくつかの地域開放事業を行なっているので今回これまでのまとめを兼ねて報告する。

1. 高校生のためのパソコン講座

平成5年3月より年に1回4日間、京都市内の高校生を対象にパソコン入門講座を行なっている。目的は急速に進む情報化の中で、次世代を担う若い人々にパソコンを知ってもらうことである。まだ学校現場には情報設備が十分整っていない状況で大学が少しでも寄与したいというのが発端である。平成7年度からは教務課のご協力を得、本学の体験入学として位置づけ夏休み4日間の集中講座で実施している。案内方法は京都市内の国公私立の高等学校（約70校）宛てに案内状及びパンフレットを送付している。ただ学校側の扱いによっては学校内で十分生徒に伝わっているかはわからない。

内容は初心者を対象とし、Windows の操作から日本語ワープロ、インターネット、表計算、プレゼンテーション、BASIC などを行なっている。

これまでに参加した学校と人数を年度毎に図1及び表1に示す。この間45校の様々な学校から参加があった。京都市内の約70校の高校のうち6割以上が参加しているということは非常に大きな成果と言える。

また、本学の体験入学と位置づけたが、実際本学を志望することと相関があるのか調べてみた。平成12年度本学一般選抜試験の志願校は京都府下で52校あり、そのうち10名以上志願者があるのは7校であった。高校生の講座参加者10名以上の学校は45校中9校であり、

図1 年度別受講者数

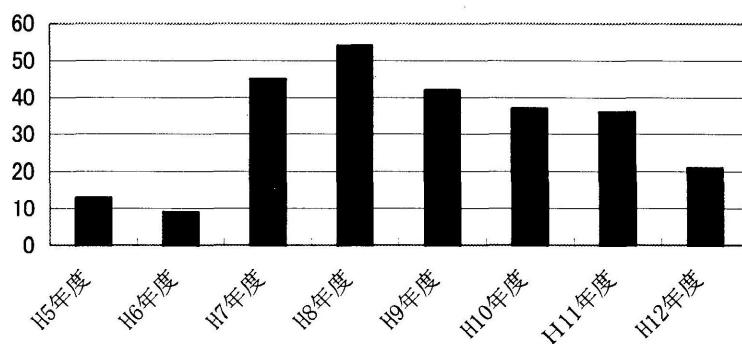


図2 学年別受講者数

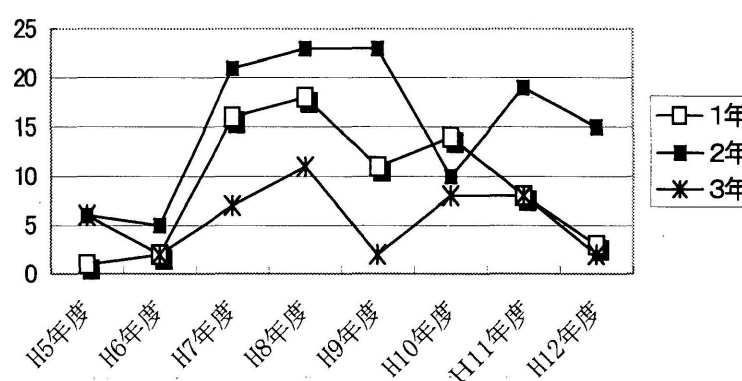


表1 高校生のパソコン講座高校別受講者数

	H5 年度	H6 年度	H7 年度	H8 年度	H9 年度	H10 年度	H11 年度	H12 年度	合計
合計	13	9	45	54	42	37	36	21	257
同志社女子高校			25				1		26
京都女子高校	1			9	2		6		18
東宇治高校			1				4	11	16
城南高校			11			3	1		15
平安高校				5	3	3	1	1	13
桃山高校				9		4			13
南陽高校				7	5				12
東稜高校	4			8					12
北稜高校					10				10
教育大附属高校	3	1			1		2		7
伏見高校						7			7
北嵯峨高校					3		3		6
南丹高校					1	5			6
同志社高校				1			5		6
塔南高校					3		3		6
乙訓高校						6			6
平安女学院					5				5
兔道高校		5							5
西乙訓高校		2					3		5
亀岡高校			3		2				5
家政学園（京都文教女子）		1		2		2			5
堀川高校					2	2			4
山城高校	1			3					4
洛水高校							4		4
日吉が丘高校				2	1				3
東山高校	2			1					3
光華高校								3	3
一燈園高校								3	3
銅駝美術工芸高校				2					2
田辺高校				2					2
聖母学院					2				2
朱雀高校			2						2
紫野高校				2					2
桂高校							2		2
両洋高校	1								1
同志社国際高校			1						1
東海大附属仰星高校			1						1
帝塚山高校					1				1
洛南高校					1				1
比叡山高校								1	1
ノートルダム女学院							1		1
西宇治高校						1			1
成章高校						1			1
精華女子高校						1			1
嵯峨野高校								1	1
その他（教諭）	1		1	1		2		1	6

そのうち4校が本学志願者数の多い7校の中に入っている。相関はよいと言えるのではないかな。

学年別に見ると(図2)2年、1年、3年の順になっている。3年生は受験を控え、こういった講習会に参加するのが難しいという理由があると思われる。情報化の中で1年生へシフトするかなと思われたが、この図を見る限りそのような傾向は見えない。

ただ参加者は平成8年度をピークに減少傾向にある。これは急速に進む学校現場の情報基盤整備の充実、情報教育の浸透によるものと思われるが、大学としてこれ以上高校生にこういう場を提供する必要性がなくなりつつあると思われ、今後続けていくか再考する必要がある。

IPCの業務としては学校への案内ポスターの作成郵送(約70校)、申込受け付け(往復はがきに地図を添付して返送)、教材作成(テキスト、FD)、当日の準備(案内板設置等)、助教インストラクタの確保(毎回5名程度)など約1月前から作業があり、かなり負担ではある。

2. 社会人のためのパソコン講座

平成10年12月より地域交流委員会の援助を受け、高校生以上の社会人を対象にパソコン講座を実施している。年3回で各回Windowsの操作、キーボード、マウス操作を午前中に行い午後日本語ワープロ入門と表計算入門を各回交互に行なっている。20世紀の人類が生んだ、知的財産の一つであるパソコンを少しでも知ってもらおうというのがねらいである。特に急速に進んだ情報化の中で中高年齢層は取り残された存在であるが、企業は勿論、家庭にも普及しつつあるパソコンに興味関心は非常に強い。専門学校とは異なり、パソコンに親しむ、楽しむというのがねらいであるので初心者を対象に行なっている。

これまでに5回行なったがいずれも案内を出してから1週間以内で定員50名を越えた。当日欠席が若干あるため実際の受講者はそれより少ないがそれでも毎回40名を越えている。年齢層ごとの受講者数を図3に示す。50代が最も多く、

図3. 年齢別受講者数

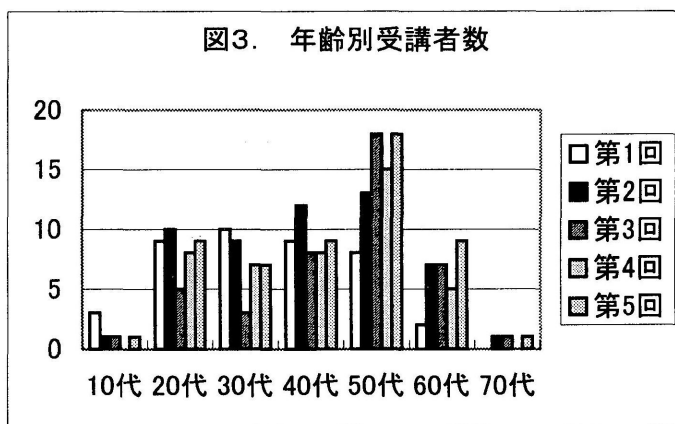


図4. 男性年齢別受講者数

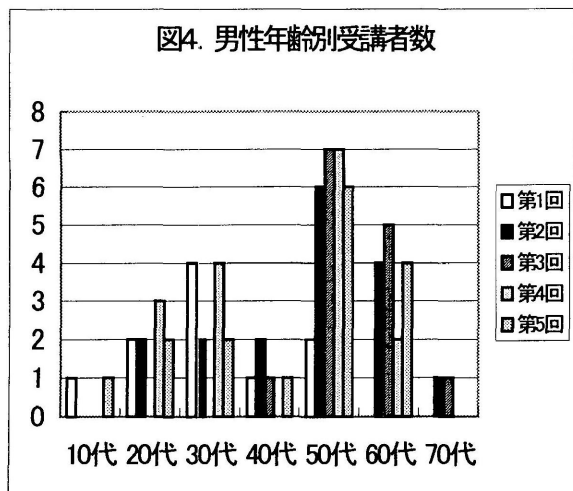
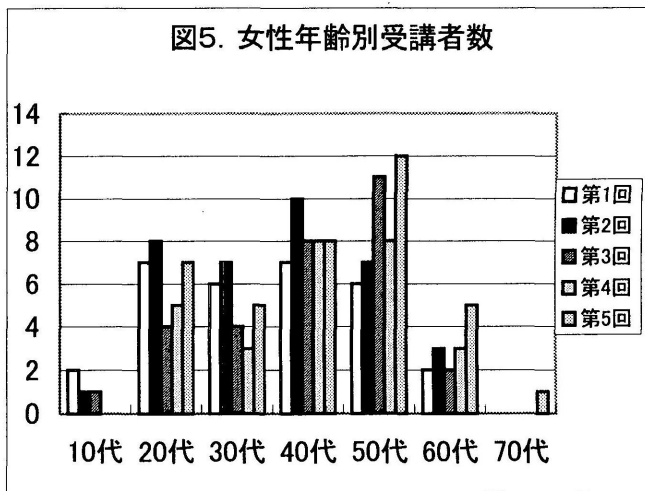


図5. 女性年齢別受講者数



70代も数名いた。平均年齢は45歳前後であった。

男性、女性別の年齢構成を図4、5に示す。男性は40代までは少なく50、60代が非常に多いのに対し、女性は40代、50代がやや多いが20代から50代まで全体に広がっている。これはこういう社会人のための講座に一般的な傾向で、男性はもっぱらお勤めを辞められてから、女性は年齢に関わらず参加されるようである。男性は趣味として、女性は実益を求める傾向があるようだ。奇数回にWORD、偶数回にEXCELを行なった。両者の受講者層に違いが出るかと予想したが今のところ顕著な違いは見出されていない。内容はともかくパソコンに親しむのが目的と言うところであろうか。

職業別（図6）で見るとお勤めのかたは勿論だが、主婦のかたが多い。高校生以上が対象だが、学生は非常に少ない。その他は大部分が退職されたかたである。

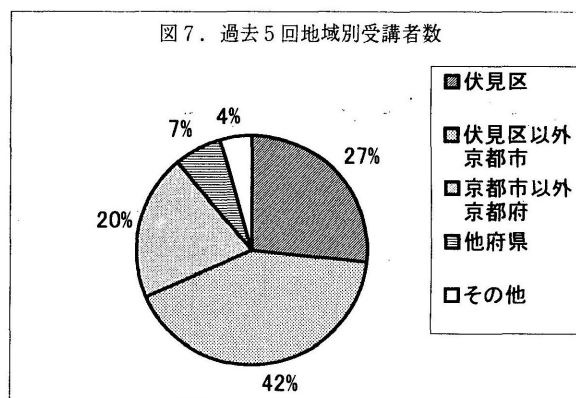
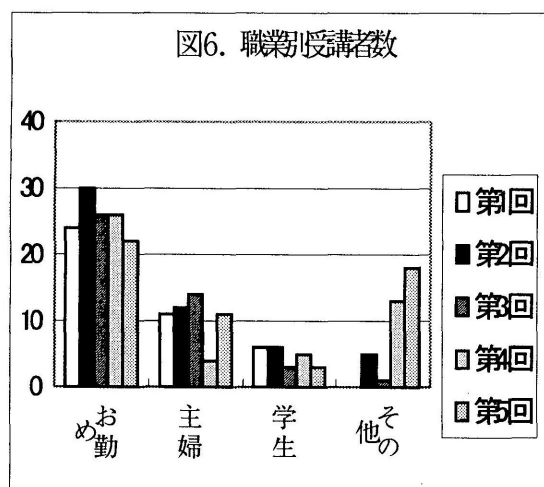


図7には過去5回の地域別受講者数を示した。伏見区が多い（約1/4）のは当然だが、それ以外の京都市から40%、京都市以外からも20%、京都府以外からも参加者がおり、広い範囲にわたってこの講座が貢献していることがわかる。講座の案内を従来の公開講座のやり方（通常は、これまで大学の講座に参加された方や大学近辺への配布に限られている）から地域に広く配布されている地域新聞（京都リビング新聞）に掲載する方法をとっていることがこの広がり大きな要因である。

1日でWindowsの操作からワープロもしくは表計算を習得するのは初心者とりわけ中高年齢の方には容易ではない。毎回テキストの最後まで無事たどり着く方は半数以下であるがそれでも非常に好評でパソコンに親しむという目標は常に達せられていると思われる。回数をもっと増やして欲しいという要望が強く、毎回定員オーバーでお断りをしている現状を考えると年3回を今後増やす必要があるのかもしれない。ただこれもIPCの業務としては負担はかなり多いのが実情である。

3. その他の一般開放

(1) 藤陵祭一般開放

毎年11月の藤陵祭期間中の土曜日、日曜日地域の人に開放し、インターネット体験をしても

らっている。例年2日併せて100名近くの人が参加している。

(2) 伏見ふれあいウォーク一般開放

平成12年度より大学のイベントである伏見ふれあいウォークの一環として情報処理センターも参加し、地域の人に開放し、インターネット体験をしてもらっている。今年は4月2日(日)に行われたが、参加者は約70名であった。

(3) 公開講座・大学見学での施設利用

大学内の様々な部局が主催する公開講座のうち情報処理センターを利用して行われるものも少なくない。また中・高等学校から見学を兼ねてインターネット体験などもおこなっている。平成7年度以降11年度まででIPCを利用して行われた学外利用を示す。(前述の高校生のための講座、社会人のための講座、附属学校利用・職員研修は含まない。)

平成7年3月 公開講座「現職教員のためのパソコン講座」

平成8年3月 公開講座「現職教員のためのパソコン講座」

6月 公開講座「現職教員を対象とした21世紀への新しい教育実践講座」

8月 インターネット利用による教育実践研究会

9月 公開講座「子供のアトリエ」

11月 菟道高校インターネット体験学習

大学祭一般開放

12月 京都女性問題地域フォーラム事前研修

平成9年3月 藤城小学校「インターネットを利用した調べ学習」

7月 公開講座「インターネットを利用した美術教育の授業実践」

公開講座「新しい教育実践をめざして」「ネットワークの教育利用コース」

8月 教育メディア研究会「インターネットと授業実践」

公開講座「子供のアトリエ」

11月 大学祭一般開放

平成10年6月 公開講座「21世紀をめざした新しい教育実践」

7月 亀岡高校「インターネット体験学習」

8月 福知山市内中学生「情報処理の実体験」

11月 大学祭一般開放

平成11年5月 明徳高校「インターネット体験」

6月 東稜高校「大学情報の検索」

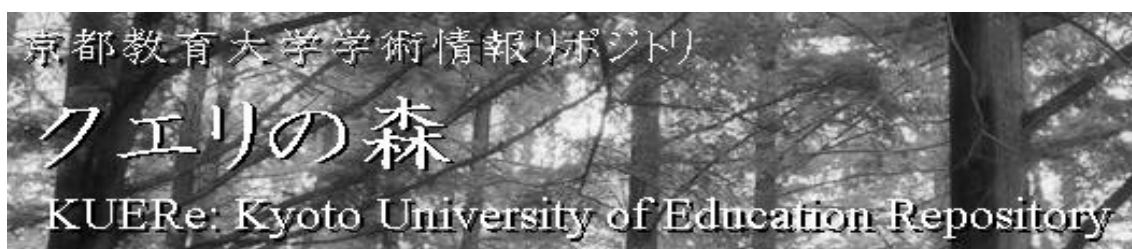
8月 福知山市内中学生「パソコン操作の実情」

公開講座「子供のアトリエ」

11月 南山東子供会「インターネット体験」

大学祭一般開放

以上情報処理センターは実に様々な形で大学開放の一役を担ってきた。こういった活動には大学の援助も一部いただいているが、決して十分とは言えない。情報処理センターは附属学校園も含めた大学内における情報教育の拠点であり、その維持管理には多大の労力を要している。それと並行してこのような地域への開放事業を続けていくことは専任のいない現在の情報処理センターの体制ではあまりに負担が大きいということを、再度申し述べておきたい。



この文献は、国立情報学研究所において電子化されたものを、本学でテキスト加工したものです。

